

詩篇62篇より

《新改訳2017》

0 指揮者のために。エドトンによって。ダビデの賛歌

- 1 私のたましいは黙ってただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。
- 2 神こそわが岩、わが救い、わがやぐら。私は決して揺るがされない。
- 3 おまえたちはいつまで一人の人を襲うのか。おまえたちはこぞって打ち殺そうとしている。城壁を傾け石垣を倒すように。
- 4 実に、彼らは人を高い地位から突き落とそうと企んでいる。彼らは偽りを好み口では祝福し心では呪う。セラ
- 5 私のたましいよ、黙ってただ神を待ち望め。私の望みは神から来るからだ。
- 6 神こそわが岩わが救いわがやぐら。私は揺るがされることがない。
- 7 私の救いと栄光はただ神にある。私の力の岩と避け所は神のうちにある。
- 8 民よ、どんなときにも神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。セラ
- 9 低い者はただ空しく高い者も偽りだ。秤にかけると彼らは上に上がる。彼らを合わせても息より軽い。
- 10 圧制に頼るな。略奪に空しい望みをかけるな。富が増えてもそれに心を留めるな。
- 11 神は一度告げられた。二度私はそれを聞いた。力は神のものであることを。
- 12 主よ、恵みもあなたのものです。あなたはその行いに応じて人に報いられます。

本篇も詩人の苦境が背景になっています。ダビデがサウル王に追われていたときのことか、息子アブシャロムの反逆のときか。4節を見ると、詩人は「高い地位」にあったようですから、後者として読むのがふさわしいでしょう。

タイトルの「エドトン」という人物は、ダビデが幕屋での礼拝奏楽のために任命した中心人物の一人で、他にもヘマンやアサフという名前も聞かれます。

この詩篇では、「祈り」の二つの側面を見出すことができます。第一は「沈黙」であり、第二は「思いの吐露」です。

1～2節、5～6節では、ほぼ同じ表現が使われています。違いがあるとすれば、5節では「待ち望め」と自分に言い聞かせている点、「救い」が「望み」と言い換えられている点、6節では「決して」という言葉が取り除かれることによって信頼が無条件のものとなっている点です。詩人は「黙して神（の答え）を待ち望む」ことに徹しようと

しています。私たちにとって「祈り」とはどういうもののでしょうか。日々同じような言葉を繰り返すだけが祈りではありません（もちろん、定型の祈りが重要であることもあります）。まず、黙して神の言葉を待つ姿勢が大切なのです。聖書を読む前に、しばらく沈黙の時を持つようにしてみましょう。私たちの日常生活は多くの雑音に取り囲まれています。心の中は、砂の入った水をグラスの中でかき回したような状態かもしれません。その水の動きが止まり、砂が沈殿するように深呼吸をして心を落ち着けましょう。そして、神が自分に語ろうとしておられることは何かを聞き取る姿勢で聖書と向き合いたいのです。

3～4節に出てくる二つの表現「**城壁を傾け石垣を倒す**」「**人を高い地位から突き落とそうと企んでいる**」は、ダビデが追い詰められ、王位がまさに崩されようとしている様子をイメージさせます。私たちの人生が試練や外的攻撃によって崩されそうなとき、このダビデの状況が重なってくるのではないのでしょうか。

7～8節では、ダビデの視点が変わってきています。彼は、もはや敵の策略に対して怒ったり悩んだりするのをやめ、神への思いで満たされているのです。そして、これまで受動的に「待ち望んで」きたダビデは、祈りの第二の側面に入っていきます。「**あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ**」。沈黙し、御言葉に耳を傾け、神が自分の苦しみのときにも共にいてくださることを確信できたとき、祈りは能動的な段階に入っていくのです。聖なる思い、神に受け入れられる思いが祈りの言葉となって溢れ出していきます。

9～12節は、その具体的な内容と言えるでしょう。「**高い者**」をアブシャロムと捉え、「**低い者**」をアブシャロムに組みする民衆と捉え、時の権力者にゾロゾロ付いていく無責任な群衆の姿が見えてまいります。イスラエルの王であるダビデが落ち目のときに、もっと頼りになりそうな指導者が出てくると、そっぽを向いて行ってしまう。しかし、神の審き（秤）の前には、彼らの行動は空しいものとして退けられるでしょう。「**圧政**」「**略奪**」「**富**」というのは、一時的に強くなる勢力を象徴する言葉のようです。とりわけ「**富**」は、私たち人間の目を眩ませるものです。富が増えると気が緩み、神に頼らなくなる危険性があります。ダビデは王宮を追われ、経済的にも困窮し始めたとき、神への信頼を握りしめました。

神は「**一度**」ならず「**二度**」までも、「**力は神のもの**」であると教えてくださいました。更に「**恵み**」も神のものであると。この、契約と深い関わりのある言葉は、如何なる状況下にあっても神がダビデを捨てないという約束を表しています。私たちが祈っている相手はどういう方なのかを思い出しましょう。私たちの人生が順風なときも、試練に遭っているときも、変わらず私たちの神であられるお方です。この方の前に黙し、思いを吐露する。今日はこの祈りの二つの側面に心を留めたいと思います。